

図書館ニュース

発行 古川高校図書館

令和2年度 4月号

※著作権法に則り、一部画像を省略
しております。ご了承ください。



まずは2、3年生の皆さん進級おめでとうございます。新1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新型コロナの影響でなかなか学校に集うことができない日々が続いておりますが、それぞれ新しい出発地点で決意したこと、考えたことを大切にしてくださいね。今できることをみつけてそれぞれのかたちでチャレンジしてもらえればなと思っています。

古高図書館では、そんな皆さんの力になれるようさまざまな本や情報を提供していきたいと考えています。今回は意外な「本との出会い方」などを紹介します！



図書館の利用について

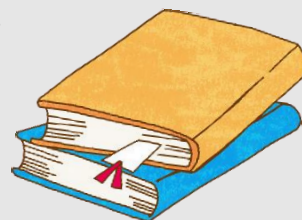
☆開館時間 8:30～16:50 (土・日・祝日以外ほぼ開館)

☆貸出冊数 3冊まで・1週間

カウンターに読みたい本を持ってくるだけ。

貸出カードはカウンターで管理しています。

☆読書相談、予約・リクエスト、延長貸出もしています。



臨時休校中は特別貸出。

5冊まで、学校再開後返却でOK!



読書したいけど、本屋さんや図書館に行くのは...

「読みたい！」を 応援します ～ 休校読書支援 ～

書店や図書館に行けない状況が続いています。このような中、読書を楽しめるようさまざまな支援サイトが公開されています。「読みたい」をあきらめずに、これらの情報を利用してみたいはいかがでしょうか。

期間限定のものは期限を入れていますが、延長される場合もあるようなのでご確認ください

【耳で聴く本Kikuhon】(<https://kikubon.jp/>)

無料で聴ける文学作品が多数あります。声優検索もできます。

【子供の科学】(<https://www.kodomonokagaku.com/>) *～5/6

「無料公開特設サイト」にて雑誌『子供の科学』1年分を無料で読めます。ウイルスについての正しい知識を身につけるための特集が2016年12月号に。

【学校では教えてくれない人生を生きる知恵「17歳の特別教室」】講談社

(<https://news.kodansha.co.jp/8193>) *～5/10

中高生向けシリーズ。知恵がたくさん詰まった本を無料公開。

【光文社古典新訳文庫「こんな時こそ古典を読もう！」】光文社

(<https://honsuki.jp/stand/>) *～4/30

「古典新訳文庫」の中高生に人気のある作品5点を無料公開。

※読みそびれた、本で読みたい等々の場合はリクエストください。

新着本よりピックアップ

表紙	『クスノキの番人』 東野圭吾/著 —その木に祈れば、願いが叶えられるというクスノキ。罪を犯し起訴を待つ身の青年に、ある依頼を受ければ釈放してくれるという話が舞い込む。その依頼とは…。 ★ 東野圭吾の新刊 ★
表紙	『SDGsとまちづくり』 田中治彦 ほか/編著 *2年生の探究学習向けに購入した本です。持続可能な地域・まちをつくるにはどうすればいいのか。2学年の皆さんの関心が高かった、観光・女性や子どもの住みやすさに関する具体例が多数紹介されています。 「大崎耕土」も掲載あり!
表紙	『シナリオのためのファンタジー事典 知っておきたい歴史・文化・お約束121』 山北篤/著 ファンタジー要素を含む物語を創作するときに知っておきたい歴史・文化・お約束をまとめた本。ですが、古代ローマ帝国、中世ヨーロッパ、近世ヨーロッパの歴史や文化の学習にも役立ちます。



2020年 本屋大賞はこの作品!



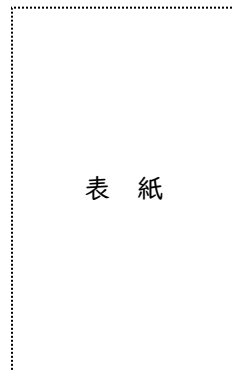
本屋さんが「一番売りたい!本」としてえらばれたのは…。

『流浪の月』 凧良ゆう/著

誘拐事件の被害者として生きてきた更紗は、周囲の気づかいや同情に違和感を抱きながら成長してきた。そんなある日、加害者とされている青年と再会して…。

「普通」「善意」とは何か。更紗の繊細な心の動きや、問いかけるような語りに添いながら読んでみてはいかがでしょう。

表紙



ど・く・しよ



人生には3回「モテ期(モテる期間)」があるって言うけれど、それと同じく3回くらい「読み期」があると思う。私の「読み期」の一回は育児休業中にやってきた。おむつを替えた後の手を洗うのも惜しみ、家の中をハエがぶんぶん飛んでも構わず、読み続ける日々だった。

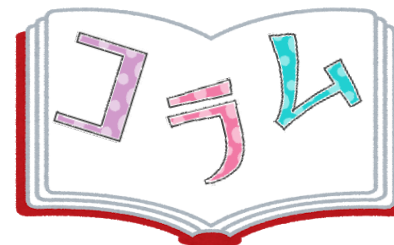
本は山ほどあった。物置の『日本近代文学全集』は世紀末におけるお宝大発見となった。『山村暮鳥詩集』も『富士日記』も『夜と霧』も、心地よいスコールのように私の心にしみわたった。

さて、育児休業中と書いたが、娘は「読み聞かせ」をされることなく成長した。「母・読み期」につき、「読み聞かせ」業務が滞ったからだ。ただし、彼女はまんまるい目で、読む母をじっと見ていた。そしてある日、ちょっと(本から)目を離れた際に、母親とそっくりのしぐさで『野火』のページをめくってみせた。田村一等兵はあたたかなよだれにまみれたのであった。のちに娘は、読んでくれないなら自分で読む、という当然の行動にでる。

私にとって読書は、実際には見ることのない空間・身を置くことのできない時間を顕在化(けんざいか)する活動だ。それは、未来を生きることと似ている。特別な行為ではなく、日々の営みの一部だ。だから「読み期」なんて、ホントは無いんじゃないかと最近思っている。強いて言えば、読む自分の存在を、鋭く客観視できる時間が「読み期」なのかも。

幼かった娘は研究者の道を選び、サリンジャーと共に生きている。時に『テニスの王子様』や『ワンピース』の世界に遊び、「ライ麦畑」に戻ってくる。それでいいのだと思う。

図書館司書教諭 武田和恵



読書、続かないんだよねあ…

習慣にする方法は?

いざ時間が出来ても、なかなか本に気持ちが向かない人いませんか?

読書の習慣化、読書の効果的取り入れ方について考えてみましょう。

読む時間を決めてしまう

- ★朝食後、15分読書してから勉強スタート。
- ★時間割の中に取り入れる。
- ★寝る前はスマホを消して読書に変える。

生活リズムに取り入れてしまうと習慣として定着しやすいようです。



「記録」で達成感・満足度アップ!

- ★読んだ日は手帳にマークする。
- ★書名と著者名だけでも記録する。

